

狸は熊のお手伝いさん

食料調達は全面的に自然に依存していたアイヌ民族にとって、狩猟は漁労同様、動物性蛋白質を得るための



佐賀 彩美 (さが あやみ)

アイヌ語地名研究会

北海道出身。北海道大学法学部卒業。モンレー国際大学院(現ミドルベリー国際大学院モンレー校)通訳翻訳学科修士課程修了。通訳案内士。

重要な手段でした。なにしろ自分たちの命がかかっていますから、より多くの獲物を授けてもらうべく、動物の生態もこと細かに観察していたため、山のカムイ達についての面白いお話がたくさん残っています。例えば、^{たぬき}狸：モユク (mo-小さい yuk-獲物) は^{ひぐま}熊の炊事係だと言われます。なぜかという、春熊を捕獲する際、熊の冬眠穴の中に狸が同居していることがあるからだそうです。雄と雌の狸がカップルでいたという実例もあります。ユーカ^カの中にもそのような物語があり、冬眠しない狸はきれい好きなので、熊が冬眠している間、穴の中を掃除して汚れた土を外に出すなど甲斐甲斐しく働いていました。

また、狸の目の周りが黒いのは、炊事で^{いろり}囲炉裏の炭がついた手で目の周りを拭いたからなのだそうです。熊は冬眠している間は^{おうよう}鷹揚で、他の動物がいてもあまり気にしないとのこと。たまに、ウサギがいることもあります。それなら^{きつね}狐もいそうですが、狐は行儀が悪いので同居は許されなかったのです。実際、熊の冬眠穴に狐がいたという話はないようです。狐は日本の伝承にもあるように、アイヌ文化においても人を幸せにするよりも不幸にすることが多く、人を化かすなどあまり良い話は伝わっていません。悪い狐をとらえたときは、皮の剥ぎ方も、普通は上から下に剥ぐのに、逆の方向に剥いだり、供えるイナウも普通は使わないエゾニワトコ、ハリギリ、タランボなどで作り、山の動物のイナウは山に向けるところ海に向けたりして、悪さへのおしおきをするそうです。たまには人助けをするような善良な狐もいるのですが、後の世代に注意を促すため、狐の悪事への対処法の方が主に言い伝え

られています。

乱獲のため絶滅してしまったカワウソも、伝統的なアイヌの生活が^{いとな}営まれていたころには北海道にもたく

さん生息しており、その肉は大層^{あまい}美味しかったそうです。カワウソの頭骨は^{まじつ}巫術に使われたので、アイヌ語ではエサマン (e-それで saman-巫術をする) です。巫術をする人が、憑神が降臨して身体をうねらせる姿が、カワウソの動きに似ているからだとも言われます。カワウソの肉を食するときに注意しなければならないのは、大変忘れっぽくなることです。ラッコの肉も同じような性質があるとのこと。そこで、人々は肉を食べる前に次の日にすべきことの準備を全て行い、道具などは紐でひとまとめに結んで再確認後に食べました。このような^{こっけい}滑稽な光景をバチェラーも目撃したことがあると著書で述べています。

ウサギ (エゾウサギ) は数も多く、一般的な食材でしたが、可愛らしい姿に似ず、アイヌの人達にとってはあまり縁起の良い動物ではありませんでした。ウサギが後ろ足で立ち上がり、前足で顔を洗うようなしぐさをすると津波を呼ぶと言われました。あの大きな耳で地殻の変調を聞き取るのでしょうか。アイヌ語ではウサギはイセボ、道東ではイソボ (iso-獲物の po-小さいの) ですが、カイクマ (kay-折れる kuma-物干し棒) とも呼ばれます。これは、海が荒れると白波が立ち、波頭が落ちくだける様がウサギが飛んでいるように見えるためです。それで、ウサギが悪さをしないようにイセボという言葉を使わず、カイクマテルケ (terke-飛ぶ) というのだそうです。動物の仕草からも自然の異変を察知して生活に生かしていたアイヌ民族の知恵は、文明の利器の便利さに慣れてしまった現代人が到底及ぶところではないと思われます。



*本稿は、アイヌ語地名研究会会長、藤村久和先生を講師として(一社)北海道開発技術センターが自主事業として実施しているアイヌ文化勉強会の内容を、藤村先生監修の下、筆者が取りまとめたものです。

藤村 久和 氏 北海学園大学名誉教授 北日本文化研究所代表 アイヌ語地名研究会会長
アイヌ学全般(精神文化・口承文芸・衣食住・民族医療(整体ほか)等)を研究領域とすると共に、アイヌの人々が自然を管理することなく、いかに共存してきたかについて、その思想や哲学を自ら学び、実践している。また、アイヌ民俗文化財調査(北海道教育委員会)に従事し、道内に居住する古老の伝承話の聞き取り作業を行い、その成果が例年報告書として刊行され、資料篇等も随時刊行している。近年は、食育コーディネーターとして北海道の食育計画にも参画する。主な著書:『アイヌの霊の世界』(小学館、1982年)、『アイヌ、神々と生きる人々』(福武書店、1985年)、『アイヌ学の夜明け』(梅原猛氏との共編、小学館、1990年)、『アイヌのごはん』(監修、デーリィマン社、2019年)、『平成20~令和3年度アイヌ民俗文化財調査報告書アイヌ民俗技術調査1~13』(北海道教育委員会、2008~2022年)等。